

割りばしを活用したきのこ栽培方法の確立

- きのこ栽培のプロでなくとも実施可能な“簡易な接種・栽培方法”
- 山から原木を運び出さず、その場で利用
- カラマツ間伐材でもクリタケ発生

概要

きのこの原木栽培は、一般的には固定式の電動ドリルで原木に穴をあけ、種駒を接種（植菌）します。電源が必要なために接種場所は家屋周辺などに限定され、接種からきのこの発生まで全てを森林内で行うことは困難です。そこで、重い原木の運搬を最小限にして、森林内で原木やナラなどの伐根（切り株）に、手軽に種菌を接種できる「簡易接種法」を考案し、実用可能なことを実証しました。

内容

接種



わりばし種菌



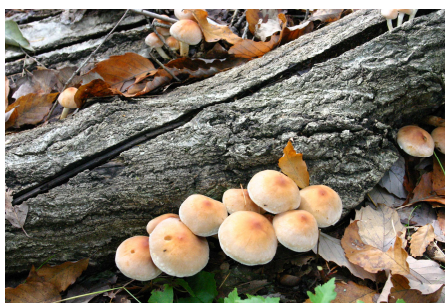
チェーンソーで原木に切り込み



切り込みに「わりばし種菌」



発生



クリタケ（コナラ原木）



クリタケ（伐根）



クリタケ（カラマツ原木）

*平成26年11月特許取得（長野県・一般社団法人長野県農村工業研究所）

詳しくは <http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/documents/kinoko.pdf>

担当者 特産部 増野和彦